畫圖
百鬼夜行
前編
陰
上

凡物乃化するや石の燕となり筆
の蝶蜂となるもよく化すといふへし
爰に鳥山石燕なるもの画にあそふ
こと年ありその筆亦よく化して
森羅萬象にさへしは師をの画し
さ哉に多く山彦なと著し世人に寄
かつ更とはさ古画の百鬼搜りに據て

意をかへ寂然補ふ書肆河東ちやく
みんとくゑんで梓に寿せんことをこふ
櫻あきよ見て六書とゝのへし陰陽風
雨晦明をまてこの其情をよ
畫圖至宅夜行と歎しけるに
前編三冊ぬきてよ校のすゑ序
をこふ余もとむ燕ら俳歌のみよし
てお識ると云さしき綴て辞よおく

いは堂ゝ怪力乱神をかたらさる
のはましめ殊まもる人に無はさしこの膽
をと避る乃おとひあそめしも一向く
され乃こ
あゐ殊集乙未秋東都隠士
崇隠主人老 拮蛛

○あさま

○やまびこ

○山けろ八

○白ちご

○川太郎

○あかなめ

○かはいらち

○きつね火

○天狗

○山うば

○犬神

○祢こまた

○かはうそ

○たぬき

○あまきり

老蠶篆

○木魅(こだま)

百年の樹にハ神ありてかたちをあらはすといふ

○天狗（てんぐ）

○幽谷響（やまびこ）

○
山童 やまわろハ

○山姥（やまうば）

○犬神（いぬがみ）

○白児（しらちご）

○猫（ねこ）また

○河童 かつて
川太郎ともいふ

獺
かハうそ

○
垢嘗
あかなめ

○
狸 たぬき

○窮奇（かまいたち）

網剪
あみきり

きつねひ
狐火